

夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）の作成方針 ＜夢洲における万博レガシーの継承と発信について＞

（説明資料）

大阪府・大阪市 大阪都市計画局

目 次

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

- ① これまでの主な検討の流れ
- ② 大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会
- ③ 2025年日本国際博覧会成果検証委員会
- ④ 大阪市内ベイエリアの将来的なあり方に関する懇談会

(2) 万博レガシーの継承と発信（記念公園・大屋根リング・記念館）

- ① 大屋根リングの部材の状態について
- ② 方針
- ③ 財源構成（案）について

2. 夢洲第2期区域マスターplan Ver. 3.0（案）の作成方針

3. 今後の進め方

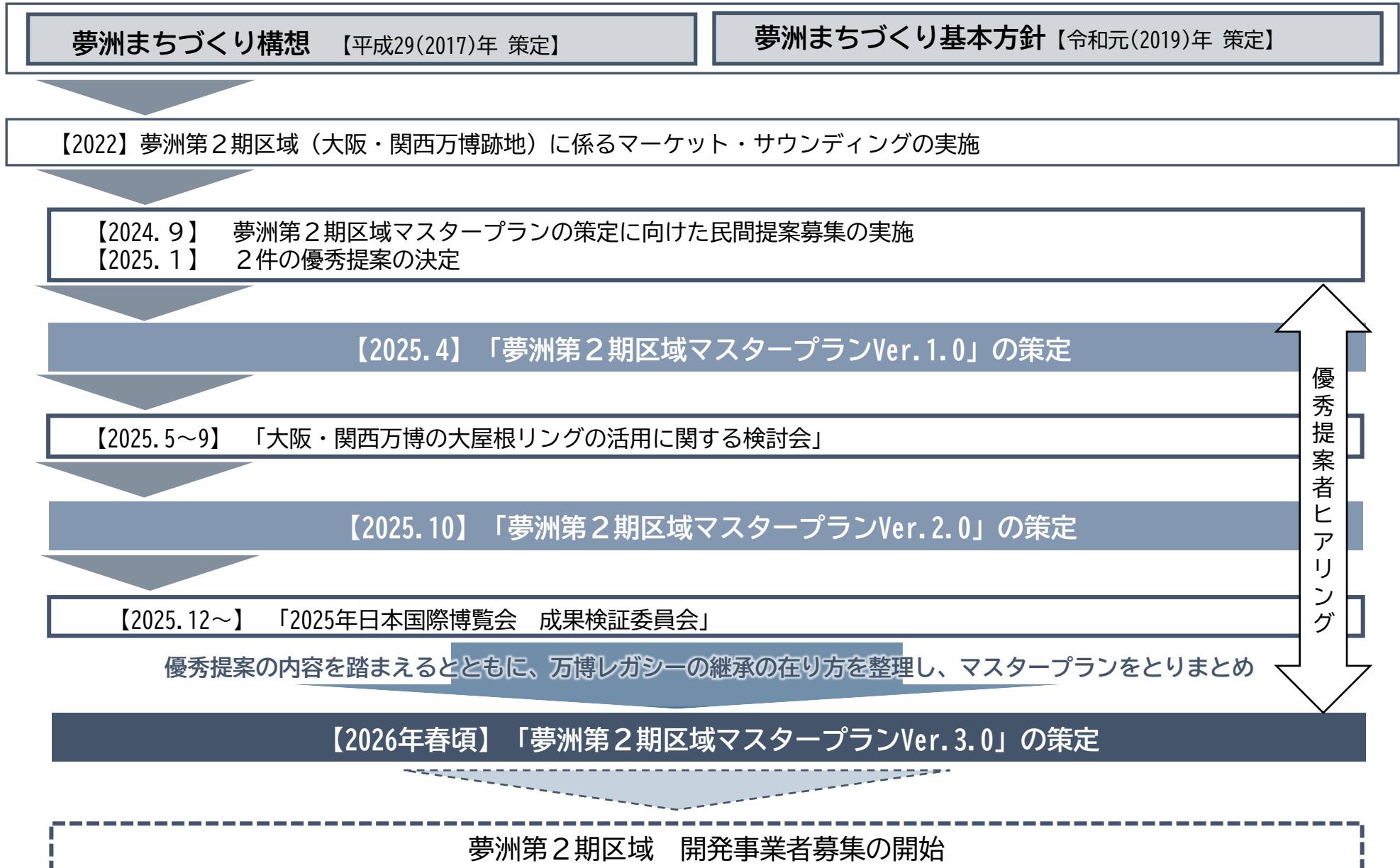
本日の会議でご確認いただきたい点

- 万博レガシーの継承と発信（記念公園・大屋根リング・記念館）の方針及び財源構成（案）
- 夢洲第2期区域マスターplan Ver. 3.0（案）の作成方針

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

① これまでの主な検討の流れ



1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

② 大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会

i. 検討会メンバー

- | | |
|-----------------|------------|
| ・2025年日本国際博覧会協会 | ・日本経済団体連合会 |
| ・経済産業省 | ・関西経済連合会 |
| ・大阪府 | ・大阪商工会議所 |
| ・大阪市 | ・関西経済同友会 |

※ 事務局：2025年日本国際博覧会協会

ii. 開催経過

- | | |
|------------------|---------|
| ・令和7(2025)年5月2日 | 第1回 検討会 |
| ・令和7(2025)年6月3日 | 第2回 検討会 |
| ・令和7(2025)年6月23日 | 第3回 検討会 |
| ・令和7(2025)年9月16日 | 第4回 検討会 |

iii. 第4回検討会での結論（検討会での総意）

- ・大屋根リングは「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す大阪・関西万博会場のシンボルとなる建築物であり、レガシーをわかりやすく残すという観点から、第2期区域の北東部約200mを原型に近い形で残置することが望ましいとの結論を得た。
- ・今後、2025年日本国際博覧会協会が提供する大屋根リングの部材の状態に関するデータを大阪市が確認することを前提に、大屋根リングとその周辺エリアについては、大阪府・大阪市において万博を記念する公園・緑地等として整備、維持管理することを検討し、議会の議論を経て決定する。
- ・また、残置する大屋根リングとその周辺エリアの整備・維持管理に要する財源については、大阪・関西万博の会場運営費の剩余金が発生する場合には、その活用を検討するとともに、国の協力を得て地方創生交付金等の国の交付金や補助金の活用の検討、大阪府・大阪市の負担の検討、協力いただく個別企業を探すなど、関係者が真摯に検討し、確保する。

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

③ 2025年日本国際博覧会成果検証委員会

※ 主に①万博の成果のまとめと検証、②万博の理念・記憶の継承の検討、③万博の成果を社会に実装させる制度的枠組みの検討、④剩余金の活用方針の検討を行う。

i. 委員会メンバー

<委員>

- ・2025年日本国際博覧会協会 会長 <座長>
- ・華道家元池坊 次期家元
- ・理化学研究所 理事長
- ・京都大学大学院 教授
- ・国際高等研究所 所長
- ・大阪・関西万博 会場デザインプロデューサー
- ・日本館 名誉館長
- ・リシュモンジャパン合同会社
カルティエ プレジデント&CEO
- ・総合地球環境学研究所 所長

<関係者>

- ・大阪府知事
- ・大阪市長
- ・関西経済連合会 会長
- ・大阪商工会議所 会頭
- ・日本商工会議所 会頭
- ・2025年日本国際博覧会協会財務委員会 委員長
- ・2025年日本国際博覧会協会 事務総長

(五十音順・敬称略)

ii. 開催経過

- ・令和7(2025)年12月25日 第1回 委員会

iii. 第1回委員会での主な意見

【出典】第1回2025年大阪・関西万博成果検証委員会 議事要旨より抜粋

- ・跡地開発で大屋根リングや静けさの森を残す方針はありがたい方針であるが、「場所の記憶」が大事。
- ・万博に来場できなかった人々にもレガシーを還元する仕組みが重要。
- ・多様でありながら一つというレガシーを作ったということを後世に残す上で、大屋根リングと静けさの森は欠かせないもの。
- ・ソフト面のレガシーも不可欠で、万博で披露されたライフサイエンスやカーボンニュートラル、空飛ぶクルマなどの新技術を社会実装するための仕組みが必要。
- ・大屋根リング約200mの残置と都市公園の整備は、レガシーを展開していく重要な役割を果たしていく。
- ・万博で生まれた知や価値を散逸させず、外交・ビジネス・文化交流などを統合する「場」のあり方を検討すべき。

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

③ 2025年日本国際博覧会成果検証委員会

大阪・関西万博宣言

第1回委員会資料より抜粋

- テーマプロデューサー、各パビリオン関係者、BIE等との議論を通じて、大阪・関西万博宣言がとりまとめられ、閉幕日（10月13日）に伊東万博担当大臣（当時）から発表。
- ①つながり・交流の拡大、深化、②新たな価値観への気づき・共有、③新たな取組として生み出した技術・システムの実証、などが盛り込まれている。

①つながり・交流の拡大、深化

【外交】

- 会場内外で万博外交の展開

【市民・社会】

- 万博参画による成功体験、スタッフとの交流、SNSを通じた交流、来場者間の交流

【文化・芸術・学術】

- 万博を契機とした文化・芸術・学術の共創

【ビジネス】

- 会場内外でビジネスマッチング、ビジネスイベントを開催

【地域】

- 参加国が日本国内の自治体と連携することによる地方創生の推進

etc.



②新たな価値観への気づき・共有

【価値観】

- 「いのちの在り方、人々の多様性」、「デジタルの浸透とリアル体験の価値の再発見」、「地球温暖化への適応意識」、「未来社会への期待」

③新たな取組として生み出した技術・システムの実証

・ デジタル

- キャッシュレス決済
- デジタルウォレット
- デジタル運営

・ モビリティ

- 空飛ぶクルマ
- 自動運転

・ AI・ロボット

- AIスーツケース
- パーソナルエージェント

・ 循環経済

- 資源循環
- カーボンリサイクル

・ ヘルスケア・ライフサイエンス

- ヘルスケア
- ライフサイエンス

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

④ 大阪市内ベイエリアの将来的なあり方に関する懇談会

i. 懇談会参加メンバー

- ・関西経済連合会会長
- ・大阪商工会議所会頭
- ・関西経済同友会代表幹事（第2回欠席）
- ・大阪府知事
- ・大阪市長

ii. 開催経過

- ・令和7(2025)年9月10日 第1回 懇談会
- ・令和8(2026)年1月21日 第2回 懇談会

iii. 第2回懇談会での主な意見

- ・夢洲全体で万博の記憶や成果を日本世界に向けて発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能を導入していくことを評価する。
- ・夢洲第2期区域において、記念公園ゾーンとして、記念館を整備、管理、運営すること、大屋根リングの一部を残置するとともに、周辺エリアを公園等として整備・維持管理することについて、万博のレガシーの継承するうえで大変重要であり、前向きな姿勢だと認識している。後世に残るような施設や機能となることを期待している。
- ・万博は非常に影響力のある世界イベントであり、開催地の夢洲は付加価値が飛躍的に上がっている。これを踏まえて、記念公園ゾーンや民間開発ゾーンは万博で生まれた価値・ビジネス・文化交流などの成果を継承するものとしてほしい。

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

④ 大阪市内ベイエリアの将来的なあり方に関する懇談会

夢洲における万博レガシー継承と発信について(案)

第2回懇談会資料より抜粋

(1) 夢洲での取組

【基本的な考え方】

- ・大阪・関西万博では、世界中の国々から多くの人が集い、多様な文化・価値観が交流することによって新たな価値観が共有されるとともに、次世代技術・システム等の実証により様々な社会課題への解決が図られた。
- ・開催地である夢洲が、万博で紹介された理念や技術、万博で生まれた様々な交流が大きく花開く場として発展することにより、万博レガシーを分かりやすく体感できることに繋げ、「いのち輝く未来社会」の実現に向けて先導的な役割を果たしていくことしたい。
- ・MICE機能などを有する第1期区域(IR区域)、第2期区域、第3期区域(将来)が連携し、夢洲全体で万博の記録や成果を日本・世界へ発信する「万博レガシーの発信拠点」となる機能の導入をめざす。

【大阪・関西万博の成果】

- ・世界各地からの参加者と出展者が、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、大阪・関西万博に結集して184日間の登録博を開催し、世界中から2,900万人を超える来場者を迎えた。
- ・「①つながり・交流の拡大、深化」、「②新たな価値観への気づき・共有」、「③新たな取組として生み出した技術・システムの実証」など様々な成果を「大阪・関西万博宣言」としてとりまとめ。

《夢洲における万博レガシー継承と発信の取組概要》

【1期】 IR

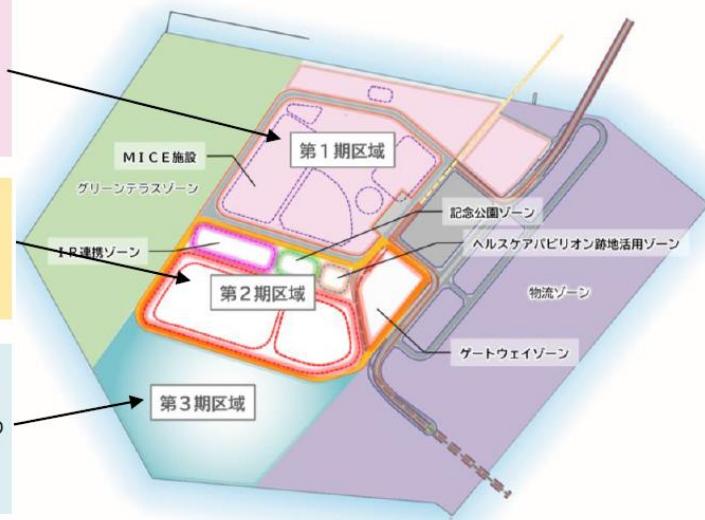
- ・新たなMICEイベントやコンテンツの創出等により、国際競争力のある地元産業の振興に貢献する

【2期】 万博跡地

- ・万博の理念継承し国際観光拠点形成を通じて「未来社会」を実現するまちづくり

【3期】 将来

- ・第1・2期で創出された最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成



1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(1) 夢洲第2期区域における検討経過

④ 大阪市内ベイエリアの将来的なあり方に関する懇談会

夢洲における万博レガシー継承と発信について(案)

第2回懇談会資料より抜粋

(2) 夢洲第2期区域での取組

- ・第2期区域では、万博の成果である「つながり・交流の拡大、深化」、「新たな価値観への気づき・共有」、「新たな取り組みとして生み出した技術・システムの実証」などを継承し、音楽、アートやスポーツなどを題材に、国内外の若者の夢や心身を育み、多くの人に開かれ、環境に配慮し、さらに数多くの先進的技術に触れ、これらを日本・世界へ発信するエリアをめざす。
- ・これに向け、公共が記念公園ゾーンにおいて、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを万博のレガシーを継承する記念公園として整備するとともに、万博の記憶を後世につなげる情報発信・交流のための記念館を設置する。
- ・さらには、民間事業者の募集要項において、『万博で実証された産業(健康や医療産業等)や研究機関の研究成果等に来訪者が気軽に接することができるショーケース機能を導入する等、「未来社会」の実現に資するまちづくりを展開する』旨を記載することにより、その実現をめざす。
- ・大阪ヘルスケアパビリオン跡地ゾーンにおいて、民間事業者が、万博で取り組んだ先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る事業を実施するとともに、これらに係る情報発信に取り組む。

府・市

記念公園ゾーン

<記念公園>

- 大屋根リングの一部を含む周辺エリアを、万博レガシーを継承する記念公園として大阪市が整備・管理して、万博で実現したリングを背景とした交流や出会いの「場」を持続的に再現

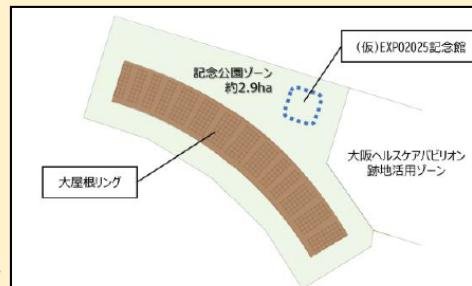
<大屋根リング>

- 「大屋根リングの活用に関する検討会」での総意を踏まえ、リングの北東部約200mを残置し、大阪市が上に登れる公園施設(展望台)として管理

<(仮)EXPO2025記念館>

- 万博の記憶を後世につなげる情報発信や交流促進のための記念館を、公園施設として、大阪市が新設して運営

- 記念館の設置にかかる財源は、関係者で真摯に検討し確保



開発事業者

<静けさの森の樹木>

- 静けさの森の樹木を利用した、まちづくりと一体となった緑地等の整備

大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

<大阪ヘルスケアパビリオン>

- 先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入し、これらに係る情報発信を行う

ゲートウェイゾーン

- 大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入

・関係者の協力による財源確保を前提に、記念館の設置について合意

・記念公園ゾーンの整備について、剰余金の活用も視野に
「第2回 成果検証委員会」で府市が提案

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(2) 万博レガシーの継承と発信（記念公園・大屋根リング・記念館）

① 大屋根リングの部材の状態について

- 現在、構造上重要な箇所について、重大な課題がないか確認を進めている

[柱、梁] 木材の接着性能は、試験確認中であるが、地震、風、日射、降雨などの影響については、概ね問題ないものと推定

[基礎、地盤] 概ね問題ないものと推定

内 容		方 法 ・ 目 的	結 果
柱、梁	地震・風の履歴	竣工後の地震・気象記録により、設計時に想定した規模を上回る揺れや風を受けていないことを確認	設計想定を上回る記録なし
	木材への日射・降雨などの影響	目視調査により、木材表面の変色・割れなどの変状を観察し、強度低下につながる劣化の兆候が見られないことを推定	概ね問題ないものと推定
	木材の接着性能	公的な検査機関における試験により、木材を貼り合わせた部分の接着状態について確認	試験確認中
基礎	コンクリート躯体の状態	目視調査により、構造上問題となるようなひび割れや損傷等がないことを推定	概ね問題ないものと推定
地盤	リング残置部周辺の地盤の状態	沈下観測記録を基に、リング残置部周辺の観測点間において沈下差が大きくなっていないことを推定	概ね問題ないものと推定

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(2) 万博レガシーの継承と発信（記念公園・大屋根リング・記念館）

① 大屋根リングの部材の状態について

(参考)大屋根リングの部材



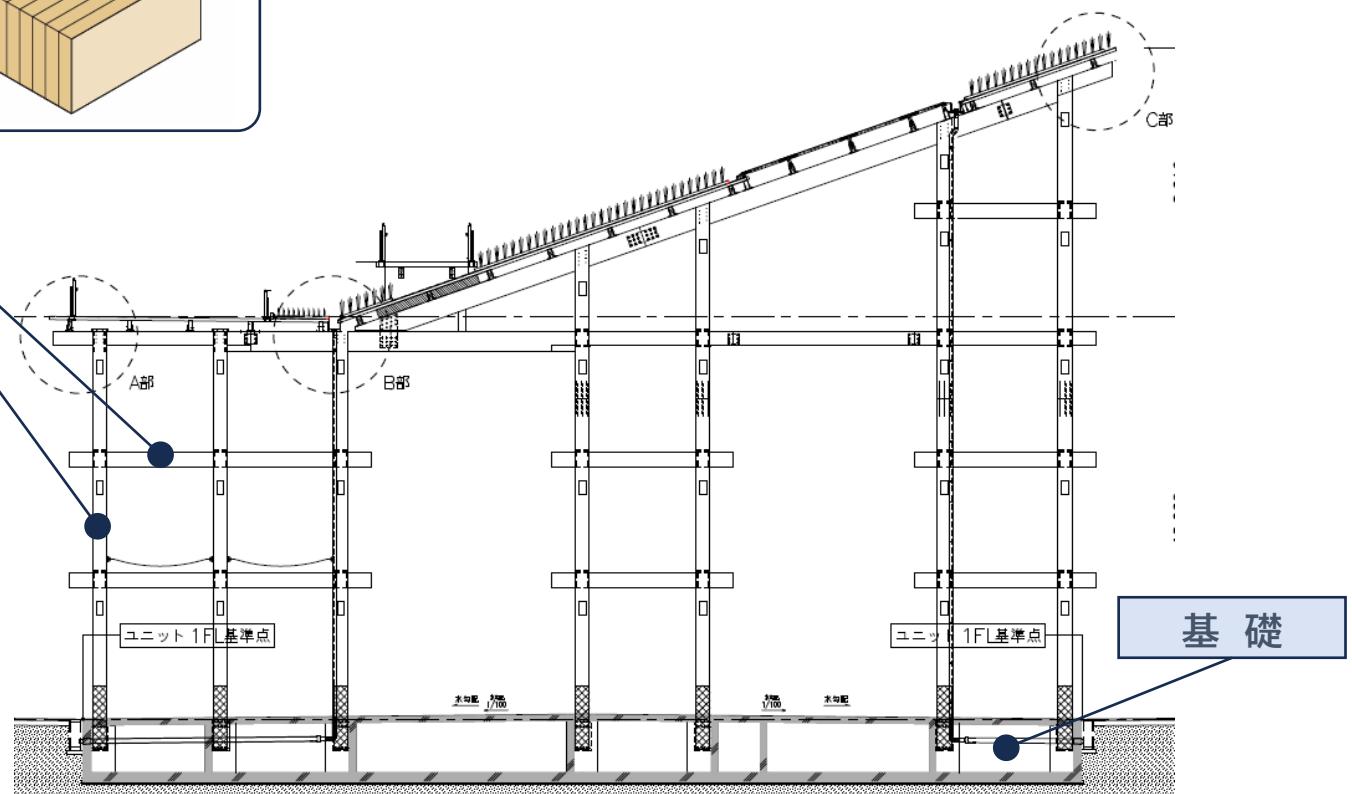
【出典:愛媛県CLT普及協議会】



柱、梁外観



柱断面
(リユース解体部)



(参考)大屋根リングの断面図

1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(2) 万博レガシーの継承と発信（記念公園・大屋根リング・記念館）

- （1）で示した検討経過を踏まえ、万博の記憶を後世につなげるため、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを万博のレガシーを継承する記念公園としての整備、情報発信・交流のための記念館の設置に向け、関係者調整を進めることとし、以下の②方針及び③財源構成(案)を本会議において確認する。

② 方針

<記念公園>

- 万博で実現した大屋根リングを背景とした交流や出会いの「場」を持続的に再現し、大屋根リングと一緒に親しめる空間の整備
- 大屋根リングの一部を含む周辺エリア（約2.9ha）を、万博レガシーを継承する記念公園として大阪市が整備・管理

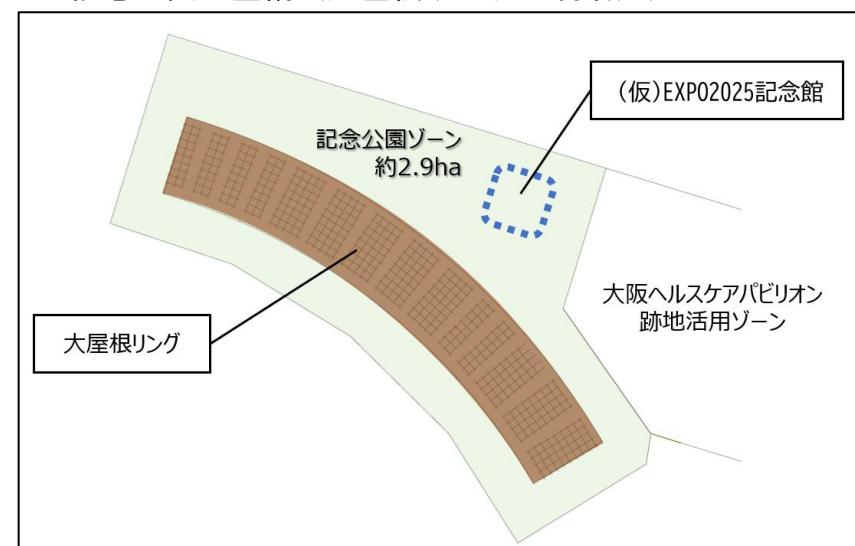
<大屋根リング>

- 万博レガシーを分かりやすく残すという観点から、大屋根リングの北東部約200mを、人が登れる形で公園施設（展望台・準用工作物）として大阪市が整備・管理
- 最先端技術を活用し、当時の万博を体験

<(仮)EXPO2025記念館>

- 万博の記憶を後世につなげる情報発信や交流促進のための公園施設（記念館）を大阪市が新設・管理
- 記念館の設置にかかる財源は関係者で真摯に検討し確保

記念公園の整備（大屋根リングの利活用）イメージ



(参考) 記念公園イメージパース



(参考) 記念館内部イメージパース



1. 夢洲における万博レガシーの継承と発信について

(2) 万博レガシーの継承と発信（記念公園・大屋根リング・記念館）

③ 財源構成（案）について

- i. 大屋根リングの実施設計・改修費は、国、経済界、府、市、博覧会協会で構成する「大阪・関西万博の大屋根リングの活用に関する検討会」での総意として、残置することが望ましいとの結論を得ていることから、剩余金を活用
- ii. 大屋根リング・記念館の管理運営費は、将来世代に万博レガシーを発信し続けることから、剩余金を活用し、引き続き、民間資金の活用も検討
- iii. 新たに整備する記念公園・記念館の実施設計・整備や基本設計及び調査等は、万博レガシーの発信拠点として、府・市が負担し、引き続き、国の交付金や補助金、個別企業の協力を検討
- iv. 本件は、夢洲における「万博の理念を継承した国際観光拠点」を目指すものであり、夢洲地区における広域拠点開発の推進に係る事項であることから、府市の負担は、原則、折半

	設計調査費・改修・整備		管理運営	
	財源(案)	概算費用(参考値)	財源(案)	概算費用(参考値)
大屋根リング	剩余金	40億円※	剩余金 (民間資金の活用も検討)	1.5億円/年※ (リングのみ)
(仮)EXPO2025記念館	国の交付金や補助金、 個別企業の協力を検討	検討中		
記念公園	府・市が負担 (原則、府市折半)	検討中	市の負担 (民間資金の活用も検討)	検討中
基本設計及び調査等 (大屋根リング、記念公園、記念館)		2億円	—	—

※博覧会協会の試算であり、概算費用については、今後、設計等を実施し算出が必要

- 剩余金の活用について、2025年日本国際博覧会成果検証委員会で議論
- 国の交付金や補助金について、引き続き関係省庁と協議

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）の作成方針

本会議で確認する「万博レガシーの継承と発信の方針」や、今後の政府の成果検証委員会及び府議会、市会での議論を踏まえ、夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）を作成する。

Ver. 2.0からの変更概要

土地利用方針 《土地利用計画（ゾーニング）》	<ul style="list-style-type: none">「公園・緑地等ゾーン（今後検討）」を「記念公園ゾーン」に変更し、記念公園ゾーンの方針、他ゾーンとの連携を追記
都市空間形成方針	<ul style="list-style-type: none">記念公園ゾーンからにぎわい軸の形成を追記
万博レガシーの継承と発信	<ul style="list-style-type: none">「大屋根リングの利活用」を「記念公園の整備」に変更し、ハードレガシーとして、公共が記念公園、大屋根リング、記念館の整備を追記

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0(案)の作成方針

3. 土地利用方針

《土地利用計画(ゾーニング)》

① ゲートウェイゾーン

- ・夢洲の玄関口として、人・モノが交流し、来訪者に高揚感（ワクワク感）・期待感を与えるにぎわい機能や交流機能等の導入
- ・夢洲の立地特性を活かしたナイトアクティビティや、他では経験できない体験（ガストロノミ一体験など）が可能な機能等の導入
- ・大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンや記念公園ゾーンと導入される機能と連携した大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入
- ・来訪者の交流や回遊の拠点となる広場の整備

② グローバルエンターテイメント・レクリエーションゾーン

②-1 スーパーアンカーゾーン

- ・世界中の人々をひきつけ、ここでしか体験できない「非日常空間」を創出する大規模で統一されたコンセプトに基づくとともに、多くの人に開かれ環境に配慮したエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入
- ・水・みどりに楽しめる空間やオープンスペースなどの整備とともに、子供を対象としたアクティビティなど、ファミリーで楽しめる機能等の導入
- ・地区内の来訪者の回遊性を高める、交流ゾーン、IR連携ゾーン、記念公園ゾーンと連携した機能の導入

②-2 交流ゾーン

- ・ゲートウェイゾーンからの人の流れ、にぎわいをスーパーインカーゾーンや記念公園ゾーン等の隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成
- ・人・情報の交流を促し、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能等の導入

「公園・緑地等ゾーン」を「記念公園ゾーン」に変更し、記念公園ゾーンの方針、他ゾーンとの連携を追記

③ IR連携ゾーン

- ・隣接する第1期区域（IR区域）や記念公園ゾーンと連携することにより相乗効果を高める機能の導入

④ 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

- ・ヘルスケアパビリオンの取組を継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入
- ・記念公園ゾーンと連携し、残置または移築するパビリオンの一部と一体となったにぎわい機能を導入

⑤ 記念公園ゾーン

- ・大阪・関西万博を記念する緑地等として整備
- ・万博レガシーをわかりやすく継承するため、万博会場のシンボルであった大屋根リングと一体となったみどりに親しめる空間の整備
- ・万博の記憶を後世につなげる情報発信・交流のための記念館を設置

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer.3.0（案）の作成方針

4. 都市空間形成方針

記念公園ゾーンからのにぎわい軸の形成を追記

【基本的な考え方】

- ・多様な用途・高質なデザインの建築物や水・みどりあふれる空間、万博のハードレガシーなどが相互に機能的・空間的に連携することで、夢洲でしか実現・体験できない「非日常」を演出する空間を創出する。
- ・建築物や公共空間等の整備は、歩いて楽しめる賑わいのある空間の創出や、区域内移動の回遊性・利便性の向上などに配慮するとともに、万博を契機として取り組まれている新たな技術やサービス等の実証・実践の場としての活用にも配慮する。
- ・アイコニックな建築物や施設配置などにより街路空間のみならず空・海などからの視点を意識した大阪のランドマークとなるシンボル的な都市景観を形成するとともに、水辺空間を活かした象徴的で魅力ある夜間景観を形成する。
- ・隣接する区域の施設にも配慮し、隣接街区と調和のとれた景観や機能を形成する。

(1) まちの骨格の形成

① うるおい軸

- ・駅前から水辺軸（大阪湾）へ直線的かつ開放的な眺望を確保するとともに、水・みどりを効果的に配置した「うるおい軸」を形成。
- ・夢洲駅から西の水辺軸（大阪湾）に向けて伸びるシンボルプロムナードには、水・みどりあふれる空間として、第1期区域と統一感のある景観形成に努める。また、沿道建築物の壁面後退や建築敷地内のパブリックスペースの確保などによって連続したオープンスペースを確保するとともに、水・みどりに親しめる空間の整備などにより、歩道部分と一緒にした、ゆとりとうるおいのある歩行者空間の創出を図る。

② にぎわい軸

- ・駅前から第2期区域内の各ゾーンを結び、将来的には第3期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線として「にぎわい軸」を形成。
- ・記念公園ゾーンから各ゾーン、静けさの森の樹木を活用した緑地等を結び、水とみどりなどで構成された居心地の良いにぎわい軸を形成。
- ・「にぎわい軸」に面する建築物の低層部には商業機能等を導入するとともに、イベントスペースとなるたまり空間の配置や低層部のデザインの工夫などにより、水・みどり空間とにぎわいが融合した個性豊かなまちなみを創出し、歩いて楽しい歩行者空間の形成を図る。



うるおい軸・にぎわい軸のイメージ

2. 夢洲第2期区域マスタープランVer. 3.0（案）の作成方針

6. 万博レガシーの継承と発信

（2）ハードレガシー

① 記念公園の整備(大屋根リングの利活用)

○ 整備の方針

- ・大阪・関西万博では、大阪・関西をはじめ日本中、世界中の来場者とともに万博を共創しつつ、大屋根リングに体現される「多様でありながら、ひとつ」とのメッセージを世界に発信した。
- ・こうした万博の記憶を後世につなげるため、大屋根リングを一部残置し、その周辺エリアを万博のレガシーを継承する記念公園として整備するとともに、情報発信・交流のための記念館を設置する。

○ 整備の概要

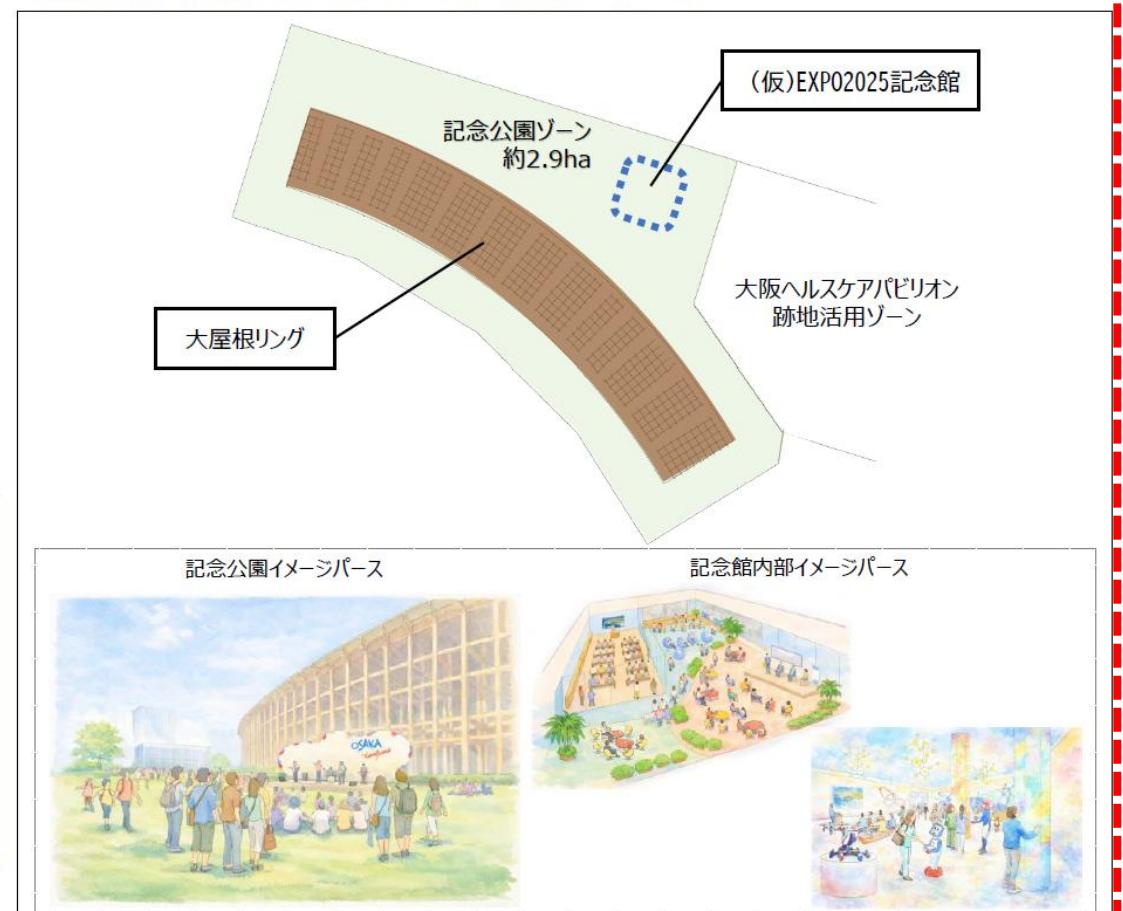
記念公園	<ul style="list-style-type: none">・大屋根リングと一緒に親しめる空間の整備・種別：緑地等・面積：約2.9ha
大屋根リング	<ul style="list-style-type: none">・準用工作物として人が登れる形で利活用・最先端技術を活用し、当時の万博を体験・延長：約200m
(仮)EXPO2025記念館	<ul style="list-style-type: none">・万博の記憶を後世につなげる情報発信・交流のための施設

【大屋根リングの概要】

- 日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築
- 会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用

「大屋根リングの利活用」を「記念公園の整備」に変更し、ハードレガシーとして、公共が記念公園、大屋根リング、記念館の整備を追記

記念公園の整備（大屋根リングの利活用）イメージ



- ・建築面積 約60,000m²（水平投影面積）
- ・長さ 約2,200m（内径：約615m、外径：約675m）
- ・幅 約30m・高さ12m（外側20m）



3. 今後の進め方

- ・本日の副首都推進本部(大阪府市)会議での議論を踏まえ、以下のとおり手続きを進める

2026年2月 副首都推進本部(大阪府市)会議（市戦略会議）

- ・夢洲第2期区域マスターplan Ver. 3.0（案）の作成方針
<夢洲における万博レガシーの継承と発信について>

2025年日本国際博覧会成果検証委員会
府議会・市会での議論

2026年春頃 副首都推進本部(大阪府市)会議

- ・夢洲第2期区域マスターplan Ver. 3.0（案）の提示

パブリックコメントの実施

2026年春頃 夢洲第2期区域マスターplan Ver. 3.0の策定

夢洲第2期区域開発事業者募集の開始

記念公園
大屋根リング
記念館

検討調査